

令和4年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査の結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

次ページに続きます。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H29 入学 現 6 年生	国語		算数		理科	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	57 (0.98)	51 (0.80)	39 (0.92)	53 (0.85)		50 (0.81)
R 4 正答率の全国比	0.78		0.84			0.79

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 4 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・ 12 月調査からすると、県との比較で国算ともに落ち込んでおり、理科も対県比 0.81 と、3 教科ともに厳しい結果となった。全ての内容・領域で県平均を上回っているものはなく、課題は多い。
- ・ 国語は、内容別ではどの内容も対県比 8 割程度にとどまっている。問題形式では選択式は対県比 9 割であるが、記述式は 6 割と低く、問題文に即して文章で書き表すことに抵抗が大きい。
- ・ 算数は、領域別では「数と計算」「データの活用」が対県比 9 割と比較的よくできており、「変化と関係」が低い。問題形式では国語同様の結果であり、文章表現の苦手な児童の多いことが伺える。
- ・ 理科は、領域別ではどの領域も対県比 8 割程度にとどまっている。問題形式では記述式が比較的よくできており、短答式の正答率が低い。ある 1 問の正答率 25.4%が響いているものである。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・ 算数科においては、4・6 年は週 5 時間、2・3・5 年は週 2～4 時間を TT による授業に充てている。担任と加配教員が話し合っ て T1 や T2 を担ってきめ細やかな指導をし、昼休みにも個別の指導に当たる。
- ・ 今年度も学力向上推進教員の配置を受けて、教職経験の浅い担任の学級や、個別支援を要する児童が多い学級で指導に尽力している。国算の示範授業も積極的に行い、教員の指導力向上に寄与している。
- ・ 校内研究、ICT オープンデー、市教研等の授業研究の機会を逃さず、全体や低中高 G での教材研究に熱心に励んでいる。UD の視点や ICT 利活用を取り入れた分かりやすい指導方法を模索している。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・ 「立腰」する短時間を日々の生活に位置付け、落ち着いて学習に臨むことを目指す。
- ・ 毎月「筆箱チェック週間」を設定し、基本的学習習慣の定着を図る。
- ・ 市の取組である「花まるタイム」を火・木・金の朝に位置付け、級外も共に指導に当たっている。15 分間に音読、図形、視写、計算にテンポよく取り組み、年間 80 回の実施で学力向上の一端を担っている。
- ・ 3 年以上は週 2 回の自主学習ノートの提出で主体的に学ぶ力の育成を図っている。ノートの点検や優秀なノートの掲示等は級外職員とし、全職員あげての取組である。
- ・ 「家庭学習の手引き」「学力向上便り」を配布し、保護者へ家庭学習の大切さを訴えている。